

「地球にやさしい建築」展 アジア巡回展 -New Horizon of Japanese Architecture: Well-being for Earth- 企画書

日本政府は、1997年の京都議定書による地球規模での温室化ガスの抑制を皮切りに、2004年にG8の取り組みとして資源の有効利用を通じて環境と経済の両立を図る「3R (Reduce、 Reuse、 Recycle) イニシアティブ」を提案し、国際的に3Rの取り組みを推進してきました。また、2007年6月に閣議決定された21世紀環境立国戦略では、東アジア循環型社会ビジョンの策定が謳われ、東アジア全体で適正かつ円滑な資源循環の実現を目指すことが示されています。

20世紀後半に押し寄せた高度成長の波はアジア各地に広がり、現在では世界の大都市20位までの人口規模の都市はすべてアジアに占められています。急速な経済発展と都市化の勢いは、高度成長期の日本同様、都市環境の悪化や大気汚染等を生み出し、国境を越え地球規模の極めて深刻な問題へと発展しています。

本展覧会は、日本の建設並びに環境に関わる技術が地球環境を守るために独自の貢献を果たしていることをわかりやすく伝え、現地の専門家や市民に広く知ってもらうための啓蒙的な内容をもつこととなります。災害を乗り越え、CO₂排出削減に努力し、リサイクルや資源の再利用に力を注ぐ我国の建築産業界の状況を、建築デザインと要素技術から示すものです。

展覧会は5セクションによる構成ですが、各テーマは特に開発途上国において現在求められている課題であり、各方面で日本が何を追求・達成しているかが分かるようになっております。

- (1) <人間> Safeguard and Life (人間を守り、見送る)
住まい、病院、そして斎場をも含めて、人々の命と暮らしについて示す。
- (2) <教育> Education and Wellness (人間を育て、心身を涵養する)
学校、スポーツ施設、図書館などを通して、教育の現場、スポーツ振興を語る。
- (3) <文化> Culture and Entertainment (文化を創り、精神を満足させる)
美術館、博覧会施設の動向を通して、芸術のあり方、人々の文化受容について示す。
- (4) <業務> Production and Innovation (経済に寄与し、革新を進める)
オフィス、生産施設、研究所を介して、活発な業務活動、イノベーションを示す。
- (5) <環境> Environment and Sustainability (環境を維持し、地球を守る)
地球環境問題に着目し、環境への配慮、緑と水の回復について示す。

2009年1月31日

「地球に優しい建築」展 アジア巡回展 実行委員会
実行委員長：三宅理一

「地球に優しい建築」展 - アジア巡回展 -

スケジュール及び主催組織

2009年

< 中国 >

5月11日～ 開催地: 北京

6月12日 主催: 清華大学建築学院
開催場所: 清華大学建築学院ホール

6月中旬～ 開催地: 瀋陽
主催: 瀋陽建築大学

7月 開催地: 台湾(未定)
主催: 台湾デザインセンター

< 韓国 >

9月 開催地: ソウル
主催: 成均大学校

10月19日～ 開催地: 釜山
主催: BIACF(釜山国際建築センター)
(釜山建築国際文化祭の一環として、国際会議、ワークショップ等と並び開催予定)